

第2次黒部総合振興計画審議会

第3回第3部会【都市基盤】

議事概要

日時：平成29年7月6日（木）10:00～

場所：黒部市役所 203 会議室

出席者：委員6名（欠席なし）、専門委員2名（欠席なし）

幹事3名（欠席なし）、計画主任7名（欠席なし）、事務局4名

次第

1. 開会
2. 部会長あいさつ
3. 報告事項
 - （1）前回審議会以降の経過について
 - （2）各委員からの意見・提言について
4. 協議事項
 - （1）施策区分別の個別事業について
 - （2）各個別事業の協働体制、市民等へのメッセージ、主な指標と目標値について
5. その他
6. 閉会

主な発言（検討）内容

○：委員からの質問・意見、●：事務局の意見・回答

部会長あいさつ

○部会長：本日はご多用中にも関わらず、第3回部会にご出席いただき感謝申し上げます。昨年度は、基本構想を中心に審議してきたが、本年度は前期基本計画の策定に向けての審議であり、計3回の部会を開催しながら策定していきたい。黒部市の未来の創造に向けて、各委員の意見をいただきたい。

報告事項

(資料1：前回審議会以降の経過について、
資料2：各委員からの意見・提言について、事務局より説明)

- A委員：空き家問題について、荻生地区などでは散居村タイプのものがみられる。昭和43年に都市計画制度が導入され、その後土地改良区による整備がなされたが、現在は荒れ放題である。空き家はどれだけ狭くても1000㎡、広いと2000㎡の規模である。都市計画の現状の制度では、道路の接合の関係から利用できなくなってしまう。市道の基準を満たし、敷地の利用促進を図ってもらいたい。
- 計画主任：市道認定も可能である。ただし全てにおいて対応はできないため、ケース毎に現場を確認して対応していきたい。
- A委員：里山問題対策として、現実には、財産区による対応が存在しており、これまで数回にわたって、相続人から寄付をされている。あまりないケースだが、相続を受けた人にとっては負担となってしまう、また相続人もいないため、寄付されているケースがみられる。財産区は森林組合に委託して里山の管理を行っている。市、県、国の補助で十分に管理費用が賄えるようである。
- 計画主任：財産区は、公職選挙法に基づく団体であり、寄付された場合は維持管理費用を賄えるケースもあるかもしれないが、ほとんどの財産区は小さく、個人の資産の寄付を受けても維持管理までは賄えないケースが大半と思われる。そのため、今後寄付をいただいても全て維持管理できるとは思わないでほしい。
- A委員：財産区は新川森林組合に委託している。補助金と売却費で十分に賄えているとの意見もある。黒部市にはほとんどの区域で財産区が存在していると思われるので、市の後押しも有効ではないか。
- A委員：亡くなってから相続を開始すると、全員が相続放棄をされるケースがみられる。相続人不存在ということになると、調整のための費用が発生するが、財産的価値はないため、結果として放置になるといったケースもみられ、深刻な問題である。

協議事項

(資料3：施策区分別の個別事業について、事務局より説明)

- B委員：2月の審議会での意見(「推進」と「促進」の使い分け)が反映されていない。例えば、3-2道路の整備の事業メニュー「1.2.都市計画道路の整備促進」は「推進」(2箇所)、3-3市街地・住宅の整備の事業メニュー「3.住宅環境の整備推進」「4.克雪住宅の推進」は「促進」、3-4水道の整備の事業メニュー「2.水道施設の整備促進」は「推進」、3-5下水道の整備の事業メニュー「1.公共下水道事業の整備促進」は「推進」だ

ったはず。また、3-2 道路の整備の「3. 道路ストックの長寿命化」は新規に黒丸が付くはず。また、「1. 市道の改良及び舗装の推進」は同じ表現が2つあり、「舗装の補修」ではないのか。

●事務局：修正漏れだと思われる。前回のご指摘内容を再確認し、しっかりと修正させていただく。また、「市道改良および舗装の整備」が2つ存在するのは、新規に行うものと既存のものがあるため、表現を別としている。また、前回の新規項目については、現行の振興計画では新規に黒丸を付けていたが、現在でも進めている事業であるため、新規の黒丸を外させてもらいたい。

○B委員：それならば、施策体系一覧でも黒丸を外してもらいたい。

○部会長：「道路ストックの長寿命化」の新規の黒丸が無いのは、記載漏れか。

●事務局：記載漏れである。追記したい。

(3-1 公共交通対策の推進について)

○B委員：「歩行者空間賑わい創出事業」に記載のある「EMU」とは何か。

●計画主任：宇奈月温泉で運行している電気バスのことである。

○部会長：どこかにEMUに関する説明を入れてもらいたい。

○B委員：EMUはすでに運行しているのではないか。事業実施期間も継続していくという意味か。

○部会長：「路線バス・コミュニティ交通等の運行支援」と「公共交通ネットワークの再編等」の違いは何か。

●事務局：「路線バス・コミュニティ交通等の運行支援」は、現行運行についてのことであり、「公共交通ネットワークの再編等」については、既存のバス路線について、利用実態を把握し、見直しを検討することから分けて計上している。前者は現行7路線の維持について、後者は持続可能な路線としての見直しをしていくという部分に特化した事業である。

○C委員：交通の箇所、名前について、「2 公共交通対策事業」のなかで、1だけ「地域交通」という表現となっているが、「地域」と「公共」の使い分けは。統一すべきではないか。

●事務局：地域交通は黒部市内のみの公共交通であり「地域」を用い、下の2つは黒部市内外の交通のため「公共」を使用している。

○部会長：その意味では、統一して良いのでは。「市内交通ネットワーク」ではだめなのか。

●事務局：「公共交通」の表現だと、黒部市を超えた交通ととらわれてしまう。「地域交通」はバス等の狭いエリア、2, 3の「公共交通」鉄道等の広域的な交通の意味合いである。事業メニューの記載内容については、既に審議会等で決定している部分なので、あまり変えることはしたくない。

○C委員：市で方針があるのならば、それに従いたい。

(3-2 道路の整備について)

- B委員：黒部宇奈月縦貫道路建設促進協議会のように、宇奈月大沢野線についても「東部山麓促進協議会」という組織が存在するので、記載すべきでないか。また、朝日宇奈月線についても記載漏れがあるのではないか。また、県道中山田家新線についても確認いただきたい。
- 計画主任：宇奈月大沢野線については、同じような文言に変更させてもらいたい。朝日宇奈月線については、確認する。また、県道中山田家新線についても、他の事業との調整に関し、確認させてもらいたい。
- 部会長：8月の部会で結果をご報告いただきたい。
- A委員：生活道路整備事業で、新規の事業については一切ないのか。
- 計画主任：市道改良の新規が無いかということになると、この10年では新規改良を進めてきた経緯があるが、事業として新規という訳ではない。個別の道路事業として挙がっているものは明記させていただいているが、市道改良について、新規として黒丸をつけるのは表現としては難しい。

(3-4 水道の整備について)

- 部会長：2 ページ目の事業実施期間について、10年間ずっと続けるものと、途中までのものがあるかと思うが、個別事業の掲載順は、事業の優先順なのか、先に終わるものを上にするのか、どう考えているのか。優先順位など、何かルールがあった方がよいのではないか。3-4の一番上、「中坪水源地取水・配水施設の増設」はH34~36とのことだが、ハードだから上にきているということか。
- 事務局：統一したルールは設定していない。
- 総務企画部長：この段階での優先順位付けについては、今後はここに挙がっているものを予算付けしたものを事業として進めることになるが、現段階で順位付けをしまふと事業を必ずその順番で実施しなければならなくなる。この中から消えていく事業もあるので、事業の掲載順に意味を持たせることはしたくない。
- 部会長：なぜこのような順番で列記したのか。
- 総務企画部長：順位付けは逆に支障となることをご理解いただきたい。
- D委員：3-4について、ハード・ソフトをまとめる、アセットマネジメントは下にするなどの順番の工夫は必要ではないか。
- 総務企画部長：原課の思いとして調整したい。

(資料4：各個別事業の協働体制、市民等へのメッセージ、主な指標と目標値について、事務局より説明)

(3-1 公共交通対策の推進について)

- 部会長：目標値の設定として、3万人の利用増を設定しているが、一方でメッセージでは出退勤での公共交通利用をお願いしている。通勤・通学時間帯時の利用について

特化した指標とした方が良いのではないかと。5年後で3万人増加とのことだが、1日あたり100人増を見越しているのならば少ないのではないかと。

- 計画主任：値は一般市民も含めた数値である。現在は特定企業の通勤のためのバス利用から全体的な公共交通への転換を、順次進めていきたい。
- 部会長：5年間で3万人増、その後5年間で3,000人増の設定の意味合いは。
- 事務局：現状の内訳は、一般利用が53,000人、出退勤が50,000人としている。5年後は出退勤を50,000人から70,000人に増加させるとともに、一般利用は1%ずつの増加を見込んでいる。出退勤はピークを70,000人とし、その後は維持するとした結果である。
- C委員：メッセージについて、自分たちのバスを育てるのだ、というコメントもあると良いのではないかと。行政が用意してくれるものだ、という意識ではない方が良い。一緒に考えよう、という意味合いがあっても良い。

(3-2 道路の整備)

- 部会長：整備延長とは、新たに整備した延長ということか。
- 計画主任：市道については、整備延長と路線数の考え方があるが、改良を含めた総距離ととらえ、このままの表現とさせてもらいたい。ただ、整備済みという表現とした方がよいかも。なお、計画幅員で整備したものを「改良」としている。
- B委員：改良「済み」との表現とした方がよい。
- B委員：3-2の「道の駅の整備促進」の事業主体が「市」となっているが、国も関与するのではないかと。また、都市計画道路の前沢大布線は県へ陳情していると思うが。また、「市道の改良及び舗装の推進」には、先ほどの指摘事項としての固有名詞が入るとのことによいか。
- 計画主任：道の駅については、国と市が一体的にするので国を追記する。前沢大布線については、要望中のため、決定事項ではないので、主体的に進めている市とした。
- 計画主任：市道の修繕については、指摘内容を反映させていただく。
- 部会長：消雪についても目標指標とできないのか。
- 計画主任：市内には80km弱の消雪があるが、新たなものは進めない方針をとっており、今後は補修のみ。延長を増やすことはないため、目標指標とすることはできない。
- 部会長：先ほどの表現については、統一すること。

(3-3 市街地・住宅の整備)

- B委員：3-3の仮換地指定率については、三日市土地区画のみか。
- 計画主任：三日市周辺のみであり、そのような表現としたい。
- 部会長：「市営住宅の長寿命化による改修戸数」は「済み」か。
- 計画主任：改修済みである。現在192戸の改修を予定しており、これまでに64戸終わっている。最終的に192戸を目標値としたい。

(3-5 下水道の整備)

- 部会長：上下水道で目標値の違いがあるが、上水道は%、下水道はヘクタールとなっているが、一般的な表現なのか。普及率に近い方が理解しやすいが。
- B委員：過去に水処理普及率といった表現があると指摘した。
- 計画主任：汚水処理人口は 94%となっているが、旧黒部市の公共下水道はまだまだ進んでいない。それを表現するためにヘクタールとしている。汚水処理人口だと、伸びが表れてこないため、このような表現とした。
- B委員：それならば2つとすればよいのではないか。
- 部会長：2つとすべきである。
- 計画主任：汚水処理人口普及率についても記載させていただきたい。

(3-6 公園・緑地の整備)

- 部会長：高齢化対策の指標も入れてはどうか。
- 計画主任：緑化推進事業として、指標としてあらわすのが難しい。市が把握できるグリーンキーパーの数を指標とした。
- 部会長：1人当たりの活動量などを表現することはできないのか。
- 計画主任：予算の関係もあり、植栽数についてはほとんど変わっていないため、難しい。
- B委員：長寿命化した施設面積などの指標はどうか。
- 計画主任：どの施設をどう長寿命化するかという予定も未定であり、新たな公園を整備する訳ではなく、指標として設定することは難しい。

(次回の部会について、事務局より説明)

閉会

- 事務局：以上をもって、第3回部会を閉会する。第4回審議会部会は、8月2日(水) 13:00 から開催する。

以上